

新型コロナウイルス感染症対策

— 感染させない・感染しないために —

5月12日改訂版



札幌医科大学保健管理センター

新型コロナウイルスに関する学内連絡先

新型コロナウイルスに関する総合窓口：学務課学務・学生支援係

内線 21820、E-mail: gakum@sapmed.ac.jp

体調報告などに関すること

：保健管理センター

内線 22050、E-mail: hokekan@sapmed.ac.jp

帰国者・接触者相談センターの連絡先

札幌市の場合：札幌市保健所〔救急安心センターさっぽろ（受診相談）〕
電話 011-272-7119 または #7119（24 時間対応）

小樽市の場合：小樽市保健所
電話 0134-22-3110（平日 8 時 50 分～17 時 20 分）

上記以外：道立保健所
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/tkh/hokensho/hokensho.htm>



新型コロナウイルスの感染予防の徹底について

医療系大学の学生には、医療従事者に準じた健康管理が求められます。日々、感染が拡大している新型コロナウイルスに対しても同様であり、各自が感染予防対策を徹底して感染症から身を守ること、感染を持ち込まないことが重要です。

本冊子は、学内において小規模な患者の集団（クラスター）の発生、感染者の爆発的急増（オーバーシュート）を防ぐため、新型コロナウイルス感染症について基本的なことを整理し、それぞれが取り組む対策をまとめています。

若年者は症状が出にくく、感染していても気が付かないうちに他者に感染させてしまう可能性があります。感染症対策の重要性を充分理解のうえ、一層の健康管理と感染防止対策の徹底を心がけてください。

保健管理センター長

高 橋 聡

目 次

大学における新型コロナウイルス対策	1
感染伝播予防	
対策 1：手洗い	2
手洗いのタイミング	
正しい手の洗い方	
対策 2：咳エチケット・マスク	4
正しいマスクの着脱方法	
対策 3：共有場所・共有物の消毒	5
対策 4：体調管理	5
体調チェックと記録	
毎日の登校後の留意点	
対策 5：感染の早期把握	6
症状出現時の欠席・早退	
濃厚接触者となったとき	
海外から帰国したとき	
感染が疑わしい場合、感染が確認された場合の対応	7
受診・相談が必要な目安	
感染が確認された場合	
(参考資料)	
・学校保健安全法第 19 条、学生が感染症に罹った場合の緊急連絡網体制	1
・「新しい生活様式」の実践例	2
・新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる場合の家庭内での注意事項	3
(別紙)	
別紙 1：体調確認票 別紙 2：体調確認票（欠席者）	

大学における新型コロナウイルス対策

小規模な患者の集団(クラスター)の発生を防ぐ
感染者の爆発的急増(オーバーシュート)を防ぐ

感染させない・感染しない

3つの「密」を回避する

3条件が重なるとクラスターの発生リスクが高まる

換気の悪い
密閉空間

多数が集まる
密集場所

間近で会話や発声をする
密接場面

換気の徹底

1～2時間ごと
5～10分間
2方向の窓を開放

大勢で集まらない

多くの人が手の届く
範囲に集まらない

近距離の会話や
大声を避ける

飛沫の飛散防止

新しい生活様式の実践→参考資料 p.2

感染伝播予防

感染経路の遮断

手洗い→p.2 マスク・咳エチケット→p.4
共有場所・共有物の消毒→p.5

健康管理→p.5

体調チェックと記録
十分な睡眠と栄養

感染の早期把握→p.6

症状出現時の欠席・早退
濃厚接触者の出席停止(2週間)
海外からの帰国後の出席停止

左の場合は、学務課 学務・学生支援係に報告

下記の場合は要相談→p.7

学務課学務・学生支援係または帰国者・接触者相談センターに連絡

- ・風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上(基礎疾患がある人は2日程度)続く場合
(解熱剤を飲み続けなければならないときを含む)
- ・強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある場合は、速やかに

新型コロナウイルス感染症と診断された場合(治療するまで出席停止)→p.7
学務課学務・学生支援係に報告

感染経路

現時点では、^{ひ まつ}飛沫感染と接触感染により伝播と考えられています。

飛沫感染

- 感染者の咳やくしゃみ等による飛沫によってウイルスが放出され、他者がウイルスを口や鼻から吸い込むことで感染します。

接触感染

- 感染者がウイルスの付着した手で周囲に触れ、その場所を他者が触ることによってウイルスが伝播し、その手で鼻・口・目などに触れることで、粘膜から体内に入り感染します。



症状について

- 感染から発症までの潜伏期間は1日から12.5日（多くは5～6日）といわれています。
- 発熱や咳、のどの痛み、筋肉痛、強いだるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）などが長引くことが多いのが特徴です。頭痛や下痢などを伴う例も認められます。
- 味覚障害、嗅覚障害を訴える場合もあります。
- 高齢者、糖尿病・慢性呼吸器疾患・免疫不全などの基礎疾患を有する人は、重症化のリスクが高い傾向にあります。
- 罹患しても無症状の場合や軽症の場合もあります。
- 若年者の重症化リスクは高くありません。
しかし、無症状や軽症の若年者が、気づかいうちに感染を広めてしまう可能性が大きいと報告されています。
- 現時点では、ワクチンや特別な治療薬は確立されていないので、対症療法が行われます。



感染伝播予防

感染させない、感染しないためには、複数の対策を組み合わせる必要があります。

対策 1：手洗い

接触感染の予防に最も重要なのは、手指衛生です。こまめな手洗いに心がけましょう。

- 流水と石けんで洗うか、手指消毒用アルコールで消毒します。
- なるべくペーパータオルを使います。手を拭くタオルを共用するのは止めましょう。
- ウイルスに汚染された手で、目・鼻・口などに触ると、粘膜から感染する可能性があります。不用意に口・鼻・目、顔を触らないように注意しましょう。

手洗いのタイミング

- ・ 外出先から戻ったとき
- ・ 登校したとき
- ・ トイレの後
- ・ マスクを外したとき
- ・ 咳・くしゃみ、鼻をかんだ後
- ・ ドアノブやつり革など不特定多数の人が触れる場所を触ったとき
- ・ 調理の前
- ・ 食事の前
- ・ 症状のある人の世話をした後 など

正しい手の洗い方

- ・ 爪は短く切っておきます。
- ・ マニキュアやつけ爪はやめましょう。
- ・ 時計や指輪は外しましょう。
- ・ 手荒れは洗い残しの原因になるため、ハンドケアをしましょう。



対策 2：咳エチケット・マスク



出典:首相官邸HPより

- 咳やくしゃみの飛沫は 1.5～2mの距離まで届きます。
- マスクは咳やくしゃみによる飛沫を防ぎます。咳やくしゃみなどの症状がある人は、感染を広げないようにマスクを着けましょう。
- マスクの予防効果は完全でないことを認識しましょう。
- マスクがないときはハンカチやティッシュ、洋服の袖（腕の内側）で口や鼻を覆います。
- 咳やくしゃみをするときは、他人から顔をそむけ、距離を保ちます。

マスクの正しい着脱方法

■装着の手順

①マスクの上下を確認する



プリーツが上向きだと、ほこりやウイルスの受け皿になるので、下向きになるように顔に当てる。

つける前に鼻のワイヤーを曲げておくと、つけた時に隙間ができにくい。

②隙間ができないように密着させる



鼻のカーブに沿って隙間ができないように密着させる。顎の下までマスクを伸ばしてマスクと顔面の隙間をなくする。

■はずす手順

表面に触れないように、ゴムをつかんで外し、ゴミ箱に捨てる。外した後は、手を洗う。



※誤ったマスクのかけ方



対策 3：共有場所・共有物の消毒

汚染した手で机・テーブル・ドアノブなどに触れると、ウイルスが物体表面に付着し、それを他の人が触ることで感染する可能性があります。

- **大勢が触れる場所**（ドアノブ・机・手すり・スイッチなど）を **1日1～2回程度**、アルコールまたは薄めた漂白剤（※）で**消毒**します。大学では授業終了後、アルコール溶液で机を拭くようにします。

※ 漂白剤（0.05%次亜塩素酸ナトリウム水溶液）
濃度が5～6%塩素系漂白剤を用いる場合、漂白剤5ml（キャップ1杯）を水500mlで薄め、ティッシュやキッチンペーパーなどに含ませて用いる。拭いた場所が錆びるおそれがあるため、消毒後は水拭きする。

対策 4：体調管理

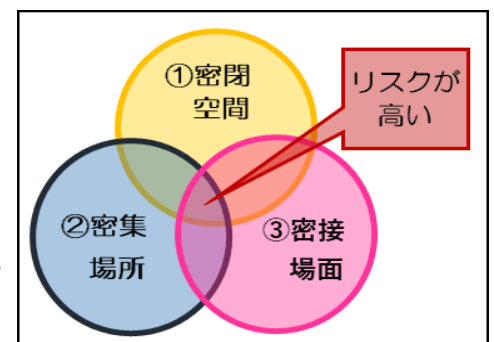
毎日体温測定をしましょう。自覚症状の有無とともに記録に残し、体調管理に役立てます。

体調チェックと記録

- 登校前に【体調確認票】（別紙1）に体温と自覚症状の有無を記録します。
- 【体調確認票】（別紙1）は毎日持参し、求められたときに提示できるようにしておきます。
- 【体調確認票】（別紙1）には2週間分の記入欄があります。
記入欄が埋まったら、学務課入り口の提出用ボックスに提出してください。
新しい用紙は、**ホームページ**から入手してください。
- 発熱や症状があるときは、欠席してください。
登校後に、発熱や自覚症状が出現したときは、早退します。判断に迷う場合は、保健管理センターに相談してください。

毎日の登校後の留意点

- 登校したら手を洗います。その後も適宜手洗いします。
- 休み時間は講義室の窓を開け、5～10分間換気します。
＊ 当番を決めるなどして確実に実施してください。
- 休憩時間や昼休みはクラスター感染のリスクが高くなるため、3条件が重ならないよう意識して過ごしてください。
- 全サークル活動（新入生歓迎コンパを含む）は指示があるまで禁止です。
- 多くの人が集まる学外活動・懇親会・イベントなど、クラスター感染のリスクが高い状況での活動も禁止です。



対策 5：感染の早期把握

発熱や症状があるとき、濃厚接触者となったとき、海外から帰国したときは、自宅で経過観察します。これらの理由で欠席した場合は、適切な手続きをとることを前提に、補講・追試の実施やレポートの活用等により弾力的に対応し、進級に不利益がないよう修学上の配慮を行います。

上記に該当する場合は、学務課学務・学生支援係に連絡してください。

内線：21820 E-mail：gakum@sapmed.ac.jp

症状出現時の欠席・早退

- 発熱時は原因にかかわらず登校しないでください。
- 自宅療養中は毎日体温を測定し、欠席者用の【体調確認票】（別紙2）に記録してください。
- 症状が改善して登校再開の目途がついた時点で、状況を学務課学務・学生支援係に報告してください。登校再開時に、【体調観察票】（別紙2）を学務課学務・学生支援係に提出してください。
- 欠席の連絡がない場合、欠席中の【体調確認票】（別紙2）の提出がない場合は、修学上の配慮を受ける事はできません。

濃厚接触者となったとき

- 濃厚接触者は、学校安全保健法施行規則第19条により「出席停止」となります。
出席停止の期間は、患者（確定例）と最後に接触した日から2週間です。
- 出席停止期間中は、手洗い等の予防行動を徹底し、外出してはなりません。
- 出席停止期間中は、体温や自覚症状を【体調確認票】（別紙1）に記録するとともに、毎日保健管理センターに報告してください。ただし、保健所の指示があるときは、その指示に従ってください。

濃厚接触者とは（患者とは確定例を指す）

患者に症状が出現した2日前から隔離開始までの間に接触した者のうち、下記に該当する者。

- ・ 患者と同居あるいは長時間の接触があった者（車内、航空機内等を含む）
- ・ 適切な感染防護無しに患者を診察、看護、介護していた者
- ・ 患者の気道分泌液、体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・ 手で触れることの出来る距離（目安として1m）で、必要な感染予防策なしで、患者15分以上の接触があった者（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断）

海外から帰国したとき

- 海外渡航は原則禁止です。渡航をした場合、帰国後2週間は自宅待機となり、授業等には出席できません。
- 欠席中は、体温等を【体調確認票】（別紙1）に記録するとともに、保健管理センターに報告してください。



感染が疑わしい場合、 感染が確認された場合の対応

受診・相談が必要な目安

- 下記の場合は、学務課学務・学生支援係、または帰国者・接触者相談センターに連絡してください。

☆すぐに相談・・・以下のいずれかに該当する場合（該当しない場合の相談も可能）

- ・ 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
- ・ 重症化しやすい方（※下記参照）で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合
（※）高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患等の基礎疾患がある方や透析を受けている方、
免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方

☆症状が続く場合・・・4日以上の場合必ず相談

上記以外の方で、発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合

- ・ 症状は個人差があるので、強い症状と思う場合にはすぐに相談してください。
- ・ 解熱剤などを飲み続けなければならない方も同様です。

感染が確認された場合

- 検査が必要となった時、検体を保健所に提出した時、感染が確認された時（診断された時）は必ず学務課学務・学生支援係に報告してください。
- 治療と感染拡大防止のため、学校保健安全法施行規則第 19 条により治癒するまでは「出席停止」となります。
- 登校再開の目途がついたときは、事前に学務課学務・学生支援係に連絡してください。

参考資料

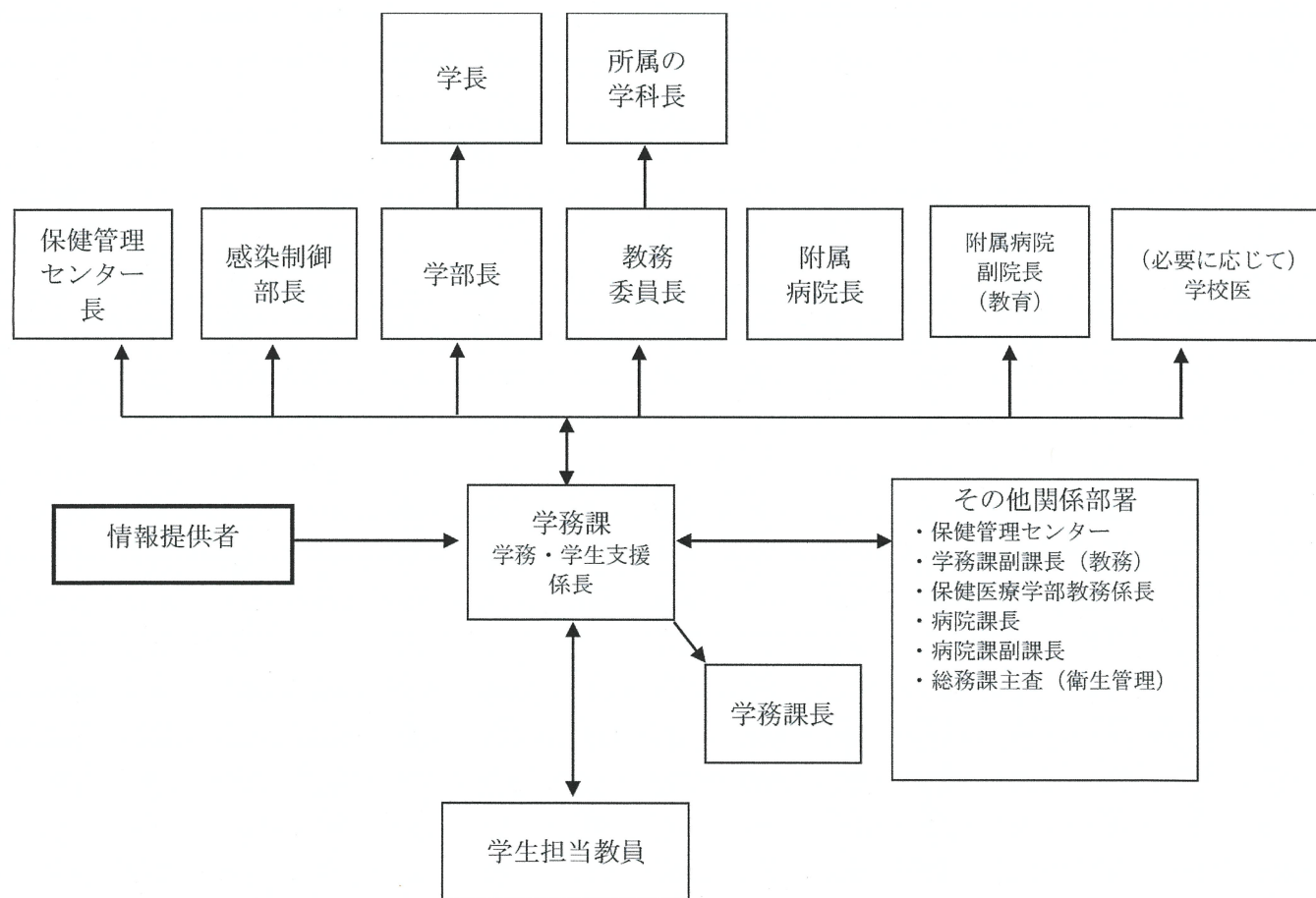
学校保健安全法第 19 条

校長は、感染症にかかっており、かかっている疑いがあり、又はかかるおそれのある児童生徒等があるときは、政令で定めるところにより、出席を停止させることができる。

学生が感染症に罹った場合の緊急連絡網体制

感染症とは、結核、麻疹、風疹、水痘、インフルエンザ、流行性耳下腺炎など他の人に感染の可能性があるものをいう。

札幌医科大学 011-611-2111（代表）



「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、**できるだけ2m（最低1m）**空ける。
- 遊びにいくなら**屋内より屋外**を選ぶ。
- 会話をする際は、可能な限り**真正面を避ける**。
- 外出時、屋内にいるときや会話をするときは、**症状がなくてもマスク**を着用
- 家に帰ったらまず**手や顔を洗う**。できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- 手洗いは30秒程度**かけて**水と石けんで丁寧に**洗う（手指消毒薬の使用も可）

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 帰省や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに**手洗い・手指消毒**
- 咳エチケットの徹底
- こまめに換気
- 身体的距離の確保
- 「**3密**」の回避（密集、密接、密閉）
- 毎朝で体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

冠婚葬祭などの親族行事

- 多人数での会食は避けて
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務
- 時差通勤でゆったりと
- オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン
- 名刺交換はオンライン
- 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成予定

ご家族に新型コロナウイルス感染が疑われる場合 家庭内でご注意いただきたいこと ～8つのポイント～

(一般社団法人日本環境感染学会とりまとめを一部改変) 令和2年3月1日版

部屋を分けましょう

- ◆ **個室にしましょう。** 食事や寝るときも別室としてください。
 - ・子どもがいる方、部屋数が少ない場合など、部屋を分けられない場合には、少なくとも2m以上の距離を保ったり、仕切りやカーテンなどを設置することをお薦めします。
 - ・寝るときは頭の位置を互い違いになるようにしましょう。
- ◆ **ご本人は極力部屋から出ないようにしましょう。**
トイレ、バスルームなど共有スペースの利用は最小限にしましょう。

感染者のお世話はできるだけ限られた方で。

- ◆ 心臓、肺、腎臓に持病のある方、糖尿病の方、免疫の低下した方、妊婦の方などが感染者のお世話をするのは避けてください。

マスクをつけましょう

- ◆ 使用したマスクは他の部屋に持ち出さないでください。
- ◆ マスクの表面には触れないようにしてください。マスクを外す際には、ゴムやひもをつまんで外しましょう。
- ◆ **マスクを外した後は必ず石鹸で手を洗いましょう。**
(アルコール手指消毒剤でも可)

※マスクが汚れたときは、すぐに新しい清潔な乾燥マスクと交換。
※マスクがないときに咳やくしゃみをする際は、ティッシュ等で口と鼻を覆う。

こまめに手を洗いましょう

- ◆ **こまめに石鹸で手を洗いましょう、アルコール消毒をしましょう。** 洗っていない手で目や鼻、口などを触らないようにしてください。

換気をしましょう

- ◆ **定期的に換気してください。** 共有スペースや他の部屋の窓を開け放しにするなど換気しましょう。

手で触れる共有部分を消毒しましょう

- ◆ **共用部分** (ドアの取っ手、ノブ、ベッド柵など) は、**薄めた市販の家庭用塩素系漂白剤で拭いた後、水拭き**しましょう。
 - ・物に付着したウイルスはしばらく生存します。
 - ・家庭用塩素系漂白剤は、主成分が次亜塩素酸ナトリウムであることを確認し、使用量の目安に従って薄めて使ってください (目安となる濃度は0.05%です (製品の濃度が6%の場合、水3Lに液を25mlです。))。
- ◆ **トイレや洗面所は、通常の家庭用洗剤ですすぎ、家庭用消毒剤でこまめに消毒**しましょう。
 - ・タオル、衣類、食器、箸・スプーンなどは、通常の洗濯や洗浄でかまいません。
 - ・感染者の使用したものを分けて洗う必要はありません。
- ◆ **洗浄前のものを共用しないようにしてください。**
 - ・特にタオルは、トイレ、洗面所、キッチンなどでは共用しないように注意しましょう。

汚れたリネン、衣服を洗濯しましょう

- ◆ 体液で汚れた衣服、リネンを取り扱う際は、手袋とマスクをつけ、一般的な家庭用洗剤で洗濯し完全に乾かしてください。
 - ・糞便からウイルスが検出されることがあります。

ゴミは密閉して捨てましょう

- ◆ **鼻をかんだティッシュはすぐにビニール袋に入れ、室外に出すときは密閉して捨ててください。** その後は直ちに石鹸で手を洗いましょう。

- ご本人は外出を避けて下さい。
- ご家族、同居されている方も熱を測るなど、健康観察をし、不要不急の外出は避け、特に咳や発熱などの症状があるときには、職場などに行かないでください。

体調確認票

学籍番号： _____ 名前： _____

日付		月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()
時間								
体温		℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
呼吸器症状	咳嗽	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	鼻汁・鼻閉	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	咽頭痛	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	呼吸苦・息切れ	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
その他	倦怠感	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	関節痛・筋肉痛	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	頭痛	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	味覚・嗅覚異常	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)
	嘔気・嘔吐・下痢	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)
	その他							
備考								

日付		月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()
時間		呼吸困難						
体温		℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
呼吸器症状	咳嗽	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	鼻汁・鼻閉	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	咽頭痛	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	呼吸苦・息切れ	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
その他	倦怠感	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	関節痛・筋肉痛	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	頭痛	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有	無 ・ 有
	味覚・嗅覚異常	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)	無 ・ 有 (味覚 ・ 嗅覚)
	嘔気・嘔吐・下痢	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)	無 ・ 有 (嘔気・嘔吐・下痢)
	その他							
備考								

発熱などの症状がある場合は、欠席をして自宅で療養してください。欠席の際は、必ず学務課学務・学生支援係に電話連絡をして下さい。

健康確認票（欠席者）

体調観察のための欠席であることを証明する書類です。

欠席中の体調を記入して、登校再開の時に学務課学務・学生支援係に提出してください。

学籍番号

名前

日 付		月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()
体 温	朝	℃(午前 時)	℃(午前 時)	℃(午前 時)	℃(午前 時)	℃(午前 時)
	夕	℃(午後 時)	℃(午後 時)	℃(午後 時)	℃(午後 時)	℃(午後 時)
呼吸器 症 状		☐ 咳 ☐ 鼻水・鼻づまり ☐ のどの痛み ☐ 息苦しい ☐ 胸の痛み	☐ 咳 ☐ 鼻水・鼻づまり ☐ のどの痛み ☐ 息苦しい ☐ 胸の痛み	☐ 咳 ☐ 鼻水・鼻づまり ☐ のどの痛み ☐ 息苦しい ☐ 胸の痛み	☐ 咳 ☐ 鼻水・鼻づまり ☐ のどの痛み ☐ 息苦しい ☐ 胸の痛み	☐ 咳 ☐ 鼻水・鼻づまり ☐ のどの痛み ☐ 息苦しい ☐ 胸の痛み
その他 症状		☐ 全身倦怠感 (からだがとてもしんどい) ☐ 関節痛・筋肉痛 (からだの節々が痛い) ☐ 頭痛 ☐ 結膜充血 ☐ 吐き気・嘔吐 ☐ 下痢 ☐ その他 []	☐ 全身倦怠感 (からだがとてもしんどい) ☐ 関節痛・筋肉痛 (からだの節々が痛い) ☐ 頭痛 ☐ 結膜充血 ☐ 吐き気・嘔吐 ☐ 下痢 ☐ その他 []	☐ 全身倦怠感 (からだがとてもしんどい) ☐ 関節痛・筋肉痛 (からだの節々が痛い) ☐ 頭痛 ☐ 結膜充血 ☐ 吐き気・嘔吐 ☐ 下痢 ☐ その他 []	☐ 全身倦怠感 (からだがとてもしんどい) ☐ 関節痛・筋肉痛 (からだの節々が痛い) ☐ 頭痛 ☐ 結膜充血 ☐ 吐き気・嘔吐 ☐ 下痢 ☐ その他 []	☐ 全身倦怠感 (からだがとてもしんどい) ☐ 関節痛・筋肉痛 (からだの節々が痛い) ☐ 頭痛 ☐ 結膜充血 ☐ 吐き気・嘔吐 ☐ 下痢 ☐ その他 []
その他		欠席中の過ごし方 ☐ 起きて過ごす ☐ 臥床して休養 ☐ その他 具体的に	欠席中の過ごし方 ☐ 起きて過ごす ☐ 臥床して休養 ☐ その他 具体的に	欠席中の過ごし方 ☐ 起きて過ごす ☐ 臥床して休養 ☐ その他 具体的に	欠席中の過ごし方 ☐ 起きて過ごす ☐ 臥床して休養 ☐ その他 具体的に	欠席中の過ごし方 ☐ 起きて過ごす ☐ 臥床して休養 ☐ その他 具体的に
		受診の有無 ☐ なし ☐ あり 医療機関名	受診の有無 ☐ なし ☐ あり 医療機関名	受診の有無 ☐ なし ☐ あり 医療機関名	受診の有無 ☐ なし ☐ あり 医療機関名	受診の有無 ☐ なし ☐ あり 医療機関名
		内服状況 ☐ 内服なし ☐ 市販薬内服 ☐ 処方薬内服	内服状況 ☐ 内服なし ☐ 市販薬内服 ☐ 処方薬内服	内服状況 ☐ 内服なし ☐ 市販薬内服 ☐ 処方薬内服	内服状況 ☐ 内服なし ☐ 市販薬内服 ☐ 処方薬内服	内服状況 ☐ 内服なし ☐ 市販薬内服 ☐ 処方薬内服
		特記事項	特記事項	特記事項	特記事項	特記事項